

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

府教委2022年度人事異動方針を発表

府教委は、9月3日の校長会で、2022年度の「人事取扱要領」等について説明をおこないました。府教委の説明によると、2022年度の「人事取扱要領」は、2021年度から大きな変更はなく、「直轄強制異動」と呼ばれる府教委人事の本質は何ら変わっていません。人事調書の作成においては、データ入力を基本とし、難しい場合は手書きによる作成も可能としています。大障教は引き続き、障害児教育の専門性の低下や、教職員の業務負担増につながる人事異動や、人事を通じた教職員の管理強化には反対の立場を貫き、「本人の希望と納得にもとづく人事」「公正・民主的な人事」を求めてとりくみます。

希望と納得にもとづく公正で民主的な人事異動の確立を

介護・保育・健康 指導の継続性など切実な事情を尊重せよ

1. この間の「人事取扱要領」に関する経過

教員人事について府教委は、1998年度当初人事において「新規採用以来現任校4年以上勤務者」「現任校10年以上勤務者」を異動対象者としました。その後、年限基準を段階的に短縮するなど、様々な改悪を重ねてきました。2011年度当初人事では、府立学校を7つのグループに分け、障害児学校の専門性の否定につながる「新規採用後3校目までに、原則として異なる3つのグループを経験するものとする」との大改悪をおこなうと同時に、「予定者通知」の前に実施されていた

2. 人事異動に関する大障教の基本的考え

直轄強制人事異動のねらいは、教育行政が、学校や教職員への管理と支配をいっそう強め、政府や府教委が決めた教育政策を学校に徹底することにあると大障教は考えています。そもそも人事異動とは、ゆきとどいた教育を推進するためにおこなうべきものです。人事異動を特定の施策推進や教職員の管理統制・教職員削減・退職の強要などに利用することは許されません。

3. 人事調書記入にあたっての注意事項

人事調書は、人事異動を前提に作成されています。それを踏まえて記入しましょう。特記事項には、「異動希望はない」「肢体不自由校以外への異動は希望しない」など、自分の意志を明確に記入しましょう。特記事項に書き切れない場合、「別紙にて添付します」と記入し、添付書類を校長・准校長

4. 人事ヒアリングについて

校長・准校長による本人ヒアリングでは、あいまいな言い方は避け、自分の意志を明確に校長・准校長に伝えましょう。重要なことは「校長具申の内容」です。校長・准校長に対し、本人希望を尊重した校長具申を求めましょう。昨年度は、3月2日に「異動予

書記局の

musuu

一生おなじ歌を 歌い続けるのは
だじなことです 必ずかしいことです
あの季節がやってくるたびに
おなじ歌しかうたわれない 鳥のように

七月に大障教定期大会が開催された。大会では、退任した「役員あいさつ」がある。

昨年度末で退任した彼は、毎週発行の「大障教ニュース」(府障教ニュース)を十九年間欠かさず作成し続けた。組合が掲げる要求と、その実現に向けた取り組みを組合員および全教職員に知らせる機関紙活動は組合活動の根幹だ。

彼の口癖は、「大障教は、大阪の障害児教育に責任を持たなければならない」だ。子どもの「成長・発達」と、それを支える教職員の「命と健康」を守ることが、大障教活動の原点であるという意味だ。

仕事と家庭生活の両立に加え、機関紙を十九年間も欠かさず発行するには、相当な「粘り強さ」が必要だ。それを支えたのは、「大障教は、大阪の障害児教育に責任を持つ」という彼の哲学とその意義、なかまの存在だと思っ。

冒頭の詩は、岸田裕子さんの「一生おなじ歌を 歌い続けるのは」だ。「何が、できるようになったのか」「数値目標」などの言葉を聞くと、現象面の変化のみを是とし、「変わらなければ進歩ではない」とする、強迫観念のようなものにとらわれる。

しかし、簡単に変えてはならない、手放してはならない、やり続けることのほうが、

だじなことです 必ずかしいことです

彼が、教えてくれたことだ。

(久)

大障教定期大会

発言ダイジェスト (その1)

職場要求アンケートで思いを集める

光陽支援分会 佐々木代議員



昨年度の職場要求アンケートは、約半数の教職員から回答がありました。アンケート内容を読むと「がんばろう」と熱い気持ちがおみ上げできます。「教室不足」と「児童生徒のトイレが少ないこと」が、多くの教職員の声として挙がってきました。

アンケート内容は校長に伝え、分会ニュースで全教職員に伝えました。校長も設備の改善には強い思いがあり、今年度、トイレ改修の予算が付いたことほうれしいニュースでした。教室不足では、小学部の入学者数が増え、教室の転用、6年生が2階の中学部エリアに入るなど、大変な状態になっています。昨年度の府教委交渉では、本校の切実な課題として、教室不足の解消と改修を強く訴えました。

6月に出席された文科省の「特別支援学校設置基準案」は極めて不十分な内容です。文科省へのパブリックコメントは、組合未加入の方や地域労連の方にもお願いしました。

組合員拡大では、大障教地域ブロックの新設教研を案内したり、加入用紙を手渡して呼びかけたりしています。コロナ下で大障教恒例のバレーボールもソフトボールもなく

聴覚障害者差別許さない署名10万超

生野聴覚支援分会



2018年の2月1日、道路工事の関係車両が学校前の交差点に突っ込み、本校5年生の児童や教員が巻き込まれるという事故が起こり、1人の女子児童が亡くなりました。被害にあった児童のご両親は、現在、加害者とその会社を相手に民事裁判を起こしています。その中で、加害者側は、

「聴覚障害者には、『9歳の壁』という問題があり、聴覚障害児童の高校卒業時点での思考力や言語力・学力は、小学校中学年の水準に留まる。よって逸失利益(生涯の収入見込み)は成人女性の40%相当だ」と不当で差別的な主張をしています。聴覚に障害を持ったことで「9歳の壁」が存在するのは事実ですが、私たち現場の教員は、その壁を乗り越えて成人している人を何人も知っています。

大聴協(大阪聴覚障害者協会)が当事者として署名活動を開始し、分会もいち早く署名に賛同しました。本校PTAの働きかけで、大阪府内の聴覚支援学校でも署名が取り组まれました。人から人へと署名が広がり、本校では1か月の短期間に2480筆を集めることができました。7月7日、ご両親は大聴協とともに、101685筆を大阪地方裁判所へ提出しました。この署名が判決に反映され、聴覚障害者の権利擁護につながることを切に願っています。

市内ブロック教研・女性部夏の学習会

7月31日(土) 鈴木健司さん(よみきかせボランティアサークル3丁目の鷹)をお招きして、絵本の魅力について学習会を開催し、オンラインも併用して25人の参加がありました。

学習会の鈴木さんのお話を紹介します。「絵本が好きか

「絵本の世界を子どもも楽しもう!」

嫌いか、それは環境によって変わる。子どもにとって読み聞かせは大事であるということとは、誰もが分かっている。でも、日々の生活に追われて、そんな時間がなかなか取れない、どうしたらいいのか。子育て真っ最中のお父さん、お母さんの悩みです。そんなとき、母さんは『座布団読み』。『座布団読み』とは、座布団の上で子どもを膝の上に乗せて絵本を読むこと。1分くらいの短い絵本でいい、むしろそれがいい、その時間はお母さん(お父さん)と子どもの時間になります。ある保育所で実践されたそうです。お迎えに行くとき座布団と絵本が置いてあつて、座布団読みが始まります。たった1分でも子どもとの時間が持てます」「たくさんの子どもたちに絵本を読むむとき、そこにはいろんな子がいます。絵本が好きなき、嫌いな子、じつとしてられない子、障害のある子。読み手はみんなに聞いてほしいと、つい『静かにして』と言ってしまいがち。きちんと聞けたか、内容が伝えられたかではなく、同じ空間を楽しんでほしいと思いがちなことが大切。『あなたに読んでくれる』と思いを込めて読んでくれる。『あなたを見てるよ』と感してもらえように読んでみましょう。聞けなかった子も少しずつ興味をもてると思います。学習会では、鈴木さんに実際に数冊の絵本を読んでもらいました。「のりまき」という絵本は、海苔の上にご飯、卵焼き、えびなどをのせてのりまきが出来るようになります。黒いフェルトは海苔、黄色、桃色の紐を卵焼きやえびに見立てて、巻きすで巻いてのりまきを作る、最後は全員が食べる。ここが大事。でも、アレルギーで卵



絵本の魅力を語る鈴木さん

やえびが食べられない子がいます。そんな時は、紐を抜くだけで食べられます! 「のりまき」の本の裏表紙には、アレルギー対応ののりまきの絵もあります。この学習会は会場とオンライン参加でおこないました。申し込んでいただいたのに、係の不手際でオンラインがなかったということがあります。申し訳ありませんでした。

(市内ブロック・女性部 大西恭子)

参加者の感想

- 〇とても楽しい時間でした。「あなたのこと知っているからね」が伝わるように、2学期からどの絵本で何をしようかと考えるとわくわくします!!
- 〇「うえからよんでも、したからよんでもかんさいべん」(鈴木さんオリジナル)、ぜひ本になってほしいですね。子どもたちと音を通じて楽しめそう!とイメージができました。